

## はじめに

公益財団法人伊藤忠記念財団が、障害のある子どもたちのために、電子図書普及事業を開始して今年で5年目を迎えます。当初の2010年度は、児童書31作品をマルチメディアDAISY図書にし、3月に全国全ての特別支援学校と大規模都市の公共図書館、合わせて約1,200か所に寄贈しました。2011年8月に実施しました寄贈先へのアンケート調査では、それまでにマルチメディアDAISY図書を利用していた学校、図書館は回答の13.8%にとどまり、マルチメディアDAISY図書を見たことがない、知らなかったという回答は67.8%に及びました。

最近、各地で開催される福祉機器展などで、「いつもわいわい文庫を使っています」「子どもたちが喜んで見えています」とお声がけをいただくことが多くなりました。マルチメディアDAISY図書が読書スタイルの一つとして認められ、必要としている子どもたちの手元に届き始めていることを感じています。

さて、電子図書の普及を通し、障害のある子どもたちの読書環境の向上を目指す私たちにとって、作品数の増加は大きな課題です。今回の配布（第4回）で作品数の合計は182となりました。これからもさまざまな分野の児童書を、バランスよく増やしていく計画です。

それと同時に、本と子どもを結ぶ立場の皆様からご理解をいただくことも大きな課題です。そのために展示会への出展、読書バリアフリー研究会の開催など、皆様に実際に作品にふれていただく機会を積極的に提供することが大切だと考えています。

また、昨年度配布しました「わいわい文庫活用術①」につきまして、多くの方から「参考になった」と高い評価をいただきました。そこで今回も、有志の先生方に利用研究をお願いしました。お忙しい中、的確にまとめあげていただきました皆様に、心からお礼を申し上げます。

2013年度、日本では障害者差別解消法が成立し、長年の懸案だった障害者の権利条約を批准しました。障害の有無に関わらず、誰もが住みやすい社会の実現に向け、国家的な取り組みが始まりました。私たちは、その中で紙の本では読むことが困難な方への合理的配慮が進むように取り組んでまいります。

「マルチメディアDAISY図書は、障害のある子どもたちの読書の一端を担えるのか」  
電子図書普及事業部の壮大な実験は、これからが正念場です。

2014年3月

公益財団法人伊藤忠記念財団